

お墓から見る終活

お墓のことそろそろ考えないとなあと思うのはどんな時でしょうか。20代や30代ではあまり思わないかもしれませんが、ご自分が亡くなったあとのことを考える時や、ご両親が亡くなったあとのことを考える時、お墓ということを意識するのではないのでしょうか。となると、50代から60代を過ぎたあたりからお墓のことを考える人が多いと思われます。その年代つて子育ても一段落して、今からは自分の時間だと思われる方が多いのではないのでしょうか。また、それとは逆に、孤独を感じることもあるのではないのでしょうか。今まで家族のために費やしてきた時間を急に自分に使うとなってもうまく使えない人もいるのではないのでしょうか。その孤独感から亡くなった時のことを考えたり、お墓のことを意識するのではないかと私は思います。お墓つてなぜ大切だと思うのでしょうか？お墓をもつ目的は、ご遺骨をおさめることと、先祖を供養することですよね。ただご遺骨をおさめる道具としてのものなら、こんなにお墓をもつことにこだわらないかもしれません。そこに宿っている魂みたいなもの

を供養しようという気持ちがあるからお墓に対して大切だと思うのでしょうね。だから、最近よく聞かれる散骨に対して抵抗を感じる方も多いのだと思います。お墓を持ちたくても、跡継ぎがないなどの理由で断念せざるを得ない方などは散骨をお考えになるケースが多いです。また、息子や娘に迷惑をかけたくないからという理由で散骨をお考えになられるようです。お墓参りや管理の面で迷惑と思うのでしようが、果たしてお子様は迷惑だと思っているのでしょうかという疑問が私の中にはございます。親をないがしろにしようと思う方はいないと信じたいですね。大変でも面倒でも親の面倒はみようと思うのが子供の想いではないでしょうか。ただ、親心というものの子供に遠慮することになり、話し合いをしないで勝手に迷惑だと思ってしまうことは本当に残念ですね。迷惑か迷惑でないかはお子様が決めることかと思えます。お子様からはなかなか言い出せないのがお葬式とお墓のこと。親の方からお墓のことを切り出すと、なんかあつたのだらうか?と心配なざるお

子様もいらつしやるかもしれません、何も無い時だからこそ話せるものなの、このコラムを見たことをきっかけにお話ししてみてはいかがでしょう？

こんなお話があります。どうしてもご主人様のお墓には一緒に入りたくないのをご自分だけ入るための納骨堂を一人で決めてきたというご婦人がいらつしやいました。それをお子様にお話ししたら、お墓参りするのには大変だからというクレームがあつたそうです。ごもつともという気持ちもあります、が、ご婦人にしてみたら絶対に譲れなかつたのでしよう。こんなことを遺言やエンディングノートに書いてあつて突然知らされたら、子供の立場として考えた時にあなたならどうされますか？ご本人の希望を叶えて納骨堂にお骨を納めますか？それとも、夫婦は一緒にとお墓に納骨されますか？お葬式を

済ませてからも悩んでしまうようなことになりかねませんね。本当にお子様のことを思うのであれば、やはり元気なうちに縁起でもないことはお話しするのがいいと思われます。お墓は自分が永遠の眠りにつく終の棲家！そのことをひとりではなく大切な人と一緒に考えることも終活です。そしてその終活のお手伝いを私たち終活カウンセラーが寄り添っていたします。

人間である以上必ず「死」はやってきます。そのことを考えることは、いいやなこと。かもしれませんが、後悔しない人生を送るためには必要なことです。これをきっかけにして話し合うことで家族の絆が深まることを期待しながら今回のコラムはここまでとします。

楽天
T C H I B A

日本最大級の通販オンラインショップ
楽天市場にて仏壇・仏具・お線香など販売中

取扱点数2500点以上

お仏壇百貨店

<http://www.rakuten.co.jp/gonkiya/>

JR仙石線「西塩釜駅」より徒歩4分

楠 セレモニア塩釜 **会館**



塩釜市南町7-32
TEL:022-367-7777

塩釜

あの人のことだけ想う場所

セレモニア

大切な方をお送りするその日を、
人生で最も感動的な日に。

大切な方のことだけ想う
その時、その場所。

祈る心を大切に、
ごんきやが真心込めて
お手伝いいたします。

終活カウンセラー
遠藤 清子(えんどうきよこ)

一般社団法人終活カウンセラー協会
認定終活カウンセラーとして活躍。株式
会社ごんきや営業課長。一男一女の母。